

音楽通じ防災考える 酒田

東京の合奏団体コンサート



演奏を通じて防災の大切さを伝える
「カトーズ アンサンブル」のコンサート＝酒田市のシェ・ピエール

音楽を通じて防災の大切さを伝える活動を行う「カトーズ アンサンブル」(東京)のコンサートが22日夕、酒田市のカフェ&バー「シェ・ピエール」で開かれた。来場者は演奏を楽しみながら、災害への備えについて

も考えた。

同グループは、元東京消防庁職員^{（※）}の加藤雅さん(72)＝東京＝が主宰する防災ボランティア団体「『防災一人語り』推進グループ」に参加する音楽家で構成。加藤さんと共に全国各地で演

奏活動を行っている。

本県初の公演となったこの日は、フルート、クラリネット、チェロのメンバー4人に津軽三味線の特別出演を加えた5人が演奏。東日本大震災復興支援ソングの「花は咲く」や映画「おくりびと」のテーマなど約10曲を披露し、約10人が耳を傾けた。

酒田市と友好都市の東京都武蔵野市出身のフルート奏者高木美里さん(35)は、50年前の1976(昭和51)年に発生した酒田大火の後、消防団同士の交流が両市の友好交流のきっかけになったことを紹介。「音楽が防災を考えるきっかけになれば」と話した。(阿久津誠)